

平成 29 年度「松竹大歌舞伎」

松竹株式会社 記者会見（抜粋）

安孫子副社長 ご挨拶

（中略）今回獅童さんにおかれましては、『義経千本桜 すし屋』の権太を勤められます。皆様ご存知かと思いますが、平成中村座で亡くなられた勘三郎さんがいろんなお芝居をしてこられました。その中で『千本桜』の通しをした際、試演会の中で忠信をさせてもらえるというチャンスに恵まれて、そして、勘三郎さん指導のもとに忠信をできたことは、獅童さんにとって大きなターニングポイントだったのではないかと思います。歌舞伎の世界で実力を発揮されて、『義経千本桜』の中でも、忠信、知盛、そして、この度はすし屋の権太を上演するという事で、歌舞伎俳優の立役（男役）にとってはこの『義経千本桜』の三役をどう勤められるということが、歌舞伎俳優の一つの大きな評価となるお役でございます。

ここにございますチラシの中に、権太の浮世絵がございますが、獅童さんの本当に恵まれたお顔、錦絵に描かれたようなお姿を持って誕生されたわけで、この錦絵を見るとともに、代々演じ伝えられてきた権太を今度は獅童さんが演じられることに本当に楽しみにしております。（中略）

中村獅童

本日はお集まりいただき、ありがとうございます。私の体調のほうも順調に回復しております。秋の巡業公演、予定通りやらせていただくこととなりました。初役（役者が初めてそのお役を演じること）でいがみの権太を勤めさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

Q いがみの権太を演じるにあたって、さまざまな感情の見せ所があると思いますが、演じ分けるうえで、どのような工夫や努力をしていらっしゃるでしょうか？

また、『義経千本桜』の権太・知盛・忠信の三役は“博士論文”ともいわれており、通し上演をされた役者さんは数十人しかいらっしゃらないということですが、将来獅童さんに演じていただける機会があるのでしょうか。

中村獅童

（中略）今回のいがみ権太は、前からやらせていただきたいお役でもあり、子悪党のような一人の男が改心していく人間ドラマというものをぜひ見ていただきたいと思っておりますし、どのように演じていくのかは、またこれから深く考えていきたいと思っております。

今回は、また高麗屋のおじさま（松本幸四郎）にご指導いただくことになりまして、そこでまた前回、海老蔵さんと『勸進帳』をやらせていただいたときの富樫もやはり、高麗屋のおじさまに教えていただいたのでございますが、いつも細かくたっぷり時間をかけて教えてくださいますので、今回もご相談しながら、獅童らしい権太というものを作ることができたらと考えております。どうぞ、よろしく願いいたします。

Q 今回初役ということで、以前、勘三郎さんとの思い出もあるかと思いますが、やるにあたり何か心がけていることはありますか？

中村獅童

子悪党だけれど、どこか愛嬌があり、人間味の溢れる権太という部分を出していただけたらなと思います。幸せなことに今まで勘三郎のお兄さんに教えていただいた、忠信、知盛もやらせていただいております、今回権太をもって、『義経千本桜』の三役を勤めさせていただくこととなりますので、以前、平成中村座で権太編、知盛編、忠信編というものを勘三郎のお兄さんがおやりになっていますが、それを間近で毎日見させていただいておりますので、それを思い出しながら、一所懸命勤めさせていただきたいと思います。

Q 過去の諸先輩方の権太のなかで参考にしたい、見習いたい、舞台を教えていただけますでしょうか。

中村獅童

それは演じられた先輩方は多くいらっしゃいますし、やり方もいろいろございます。仁左衛門のおじさんのように西のやりかたの面白さ、西のやり方での舞台の際には梶原のお役で出させていただいております。東京のほうもちろん、どちらも面白い。高麗屋のおじさまは「必ずこうしなさい」とおっしゃる方ではない。「みきくん※の富樫で」「みきくんの権太で」とか、いつも個性を伸ばしてくださる教え方なので、今回もどんなふうに造っていくのかということと相談しながら、高麗屋のおじさまに教えていただく稽古を非常に楽しみにしております。

※本名：幹弘(みきひろ)

Q 今回ご一緒される方々もフレッシュな方が多く、ご活躍のめざましい方々もそろわっているかと思うのですが、その中で初役にかける思いがございましたら、お聞かせください。

中村獅童

今回、萬屋一門の萬太郎、播磨屋の米吉とご一緒で来てうれしく思いますし、中村亀鶴さんとは同学年で、若手で並びの役から一緒にやらせていただいた仲間ですし、亀蔵のお兄さんは、平成中村座、コクーンの時からたびたび一緒にやらせていただいている先輩なので、また、宗之助さんは同学年で、亀鶴さん、宗之助さんとは同級生ですので、そういった同世代、子供のときから一緒にやってきた仲間とこうして主演としてお芝居に出させていただけることは非常に嬉しいですし、梅花さんも子供の時からいつも遊んでいた方ですから、トンボも教えていただいていたので、とにかくこれで復帰できるということは私にとって一番の喜びですし、ましてや権太という大役をやらせていただけることは、本当に感慨深いものでございます。

Q 四月の『超歌舞伎』、歌舞伎になかなか触れる機会のない方もみられて、獅童さんを通して歌舞伎に興味を持った方もいらっしゃいます。ですがやはりそうはいつでも、急に歌舞伎座に一步踏み出すのは難しいかと思います。そんななかで、今回の地方へまわる公演ということで思うところがございましたらお聞かせください。

中村獅童

やはり、お年を召した方や、小さいお子様がいらっしゃる方、東京へ足を運ぶことが難しい方も多いと思います。そういった中で、地方へまわり、皆様にお目にかかれることはうれしいですし、この巡業が歌舞伎を見るきっかけになればうれしいです。今回の『義経千本桜』という人間ドラマを描いた演目は非常にわかりやすいものでございます。また、『釣女』もわかりやすくおかしみのある演目となっております。ですので、ぜひ、幅広い方々に見ていただけたらと思っております。

超歌舞伎を見ていただいた方々には、寄せ書きや多くの励ましをいただいて、心打たれ何としても復帰したいと思いました。友人、ファン、先輩の皆様の「待っているから」という声に励まされました。

Q二ヶ月お休みをされての復帰舞台ということですが、心待ちにされていたファンの方へどのようなものをお届けしたいのか、また舞台への思い、意気込みなどございますでしょうか。

中村獅童

やはり、役者が舞台を降板しなければいけないということ、楽しみにして下さったファンの方を裏切ってしまうかたちになってしまったことは、非常に苦しいことでした。しかしながら、しっかりと病気を克服し、今まで以上に舞台でお役を演じる事が我々の仕事でありますし、そこでいい結果を残す、いい芝居で皆さんに喜んでいただくことがすべてだと思うので、この秋の初役の権太を精一杯勤めさせていただいて、ファンの皆様に喜んでいただけるような芝居になればいいと思います。

(中略) 役者はいいことも悪いことも、どんなこともすべてが経験だと思えますし、そういったことを一つ一つ表現につなげていくことができなければ役者ではないですし、やはり日々の出来事、日々どんなことを感じて生きているかということが表現の一つ一つに出てくるのではないかと思っております。

Q今回のお休みの中で改めて考えられたことは何だったのでしょうか。

中村獅童

焦ってもしようがないので、なるべく芝居のことを考えないようにしていましたが、と少しずつ気付くと舞台のことを考えていました。やはり舞台に立たせていただく、大好きな芝居の世界の中で、役者という職業に就くことができ、皆様の前に立たせていただいて、表現させていただいて、本当に幸せだということと、毎日こうして生きていることの喜び、亡くなった父、母への思いであったりとか、歌舞伎の諸先輩の思いだとか、毎日生きていることに意味があるんだということをしごく考えました。

(中略) 私にできることは舞台の上で芝居をやらせていただくことだけですので、そういった中で少しでも、皆様に勇気や希望、元気になっていただければという思いで精一つ勤めさせていただければと思います。よろしく願いいたします。